

令和元年 11 月 1 日

医療従事者の負担軽減及び処遇改善計画（平成 3 1 年度）

当病院では、医療従事者の負担の軽減及び処遇の改善に資する体制を整備し、次のような取り組みを行っています。

取組の目標

当院が地域の急性期病院であることを再認識し、急性期病院の役割を果たすため、医師、看護師、医療従事職員等との間での業務の役割分担を推進して全職員の負担軽減に対する体制を確保することを、目標とする。

平成 3 1 年 3 月現在の勤務医の勤務状況

1. 医師数 常勤 4 3 名（研修医除く） 非常勤 4 3 名（常勤換算 7. 1 4 名）
2. 常勤医師平均業務時間 平均週 4 6 時間 2 4 分
3. 当直回数 平均月 1. 9 6 回

●医療従事者の負担軽減及び処遇改善

項目①外来診療時間の短縮、地域の他の保険医療機関との連携など外来縮小の取り組み

○平成 3 0 年度までの取り組み

H23 に地域医療支援病院の承認を受け、外来医療の機能分化を推進してきた。

○現状

H29 年度 紹介率 84.8%・逆紹介率 84.7%

<逆紹介率の推移>

H27 年度 6068 件 74.0% H28 年度 6160 件 76.8%

H29 年度 6642 件 84.7% H30.4~H31.1 5345 件 79.4%

○令和 1 年度の目標

紹介率・逆紹介率ともに 80%を目指す。

○令和 1 年度の目標の達成状況

4~8 月 紹介率 92.8% 逆紹介率 94.0%

○平成30年度までの取り組み

地域連携パスの運用を推進してきた。

○現状

- ・大腿骨頸部骨折・脳卒中連携パスの運用の推移

H28年度 241件 H29年度 282件 H30.4～H31.1 205件

- ・参加医療機関との3回/年の会合の実施。
- ・連携病院との症例検討会の実施。

○令和1年度の目標

連携パスの運用を通じ、地域完結型医療の急性期を担う病院としての役割を果たす。また、後方病院との連携を今まで以上に密に持つことで、スムーズに運用できるようにする。

○令和1年度の目標の達成状況

連携パスの運用数 大腿骨23件。脳卒中80件。

会合、検討会は計画的に企画、実施している。

○平成30年度までの取り組み

入退院支援センターを設置し、入退院支援の充実を図っている。

○現状

退院支援担当者により、退院後必要時、訪問診療等の対応が可能な医療機関の情報提供を行っている。

○令和1年度の目標

予約入院患者の入院前看護師面談で問題を早期に把握し、退院支援を充実させることにより、逆紹介を推進する。

○令和1年度の目標の達成状況

入退院支援担当者が情報共有し、早期支援に心がけている。

○平成30年度までの取り組み

地域医療連携ネットワーク活動や新規開業クリニックの訪問活動により、医療機関の専門性を把握し、逆紹介情報に役立ててきた。

○現状

連携室への問い合わせの際には適切な紹介先の情報提供が行えるようにしている。

○令和1年度の目標

ひき続き、ネットワーク活動やクリニック訪問を行い、地域の医療施設情報の把握につとめる。

○令和1年度の目標の達成状況

ネットワーク活動は継続して行っている。

○平成30年度までの取り組み

予約枠数を特に制限していない。

○現状

予約枠数を超えて、予約が入っている。

○令和1年度の目標

○現状を把握し、適性な予約枠数を設定する。

○令和1年度の目標の達成状況

△一部の現状把握にとどまる。

項目②院内保育所の設置（夜間帯の保育や病児保育の実施が望ましい）

○平成30年度までの取り組み

職員の子育てを支援し、安心して働き続けられる勤務環境整備を目的として院内保育所の設置を検討している。

○現状

開院時の運営開所については病院移転後の経営状況を勘案し開所を延期している。

○令和1年度の目標

開院時の運営を延期した事業として、継続して病院移転後の経営状況を勘案し院内保育所開所の可能性を検討し、職員の子育てを支援、働き続けられる勤務環境の整備を推進する。

○令和1年度の目標の達成状況

×：開所に必要な情報収集を実施。内閣府企業主導型保育事業の助成実施および新規募集状況、保育所運営事業者からの聴き取り等。

項目③医師事務作業補助者の配置による病院勤務医の事務作業の負担軽減

○平成30年度までの取り組み

主たる業務は業務の拡大、統一化。電子カルテ病棟稼働への対応支援。作成補助。
その他、担当者毎で担う業務が多少異なっている。

○現状

平成30年3月、25:1取得。

○令和1年度の目標

業務の拡大、統一化。電子カルテ病棟稼働への対応支援。

○令和1年度の目標の達成状況

WG立上げて取り組むことができた。

項目④病院勤務医の時間外・休日・深夜の対応についての負担軽減及び処遇改善

○平成30年度までの取り組み

受持ち制から複数主治医制への変更導入を推進している。
福島医大より救急科の他特定診療科への当直支援を要請。

○現状

- ・診療科の特性があり、複数主治医制の導入は全科にて実施されていない。
- ・二次救急輪番日には、17時～21時のシニア医師の当直支援や福島医大より救急科の他特定診療科への当直支援を要請し負担軽減を実施している。

○令和1年度の目標

- ・診療科の特性を踏まえつつ、可能な限り、複数主治医性制の導入推進と勤務時間外に緊急でない患者の病状説明等の対応を行わないよう努めるよう各診療科部長へ継続して要請していく。
- ・安全衛生委員会、総務課と連携し長時間労働の医師の業務の現状を把握し、診療部長と対策ができる体制をとるようにする。

○令和1年度の目標の達成状況

一部達成：

- ・複数主治医性制の導入推進と勤務時間外に緊急でない患者の病状説明等の対応を行わないよう努めることについて病院管理会議にて各診療科部長へ院長より要請。
- ・安全衛生委員会と連携し長時間労働となる医師の業務現状を把握し、健康管理面を含め、診療部長へ報告対策を実施。

項目⑤看護補助者の配置による看護職員の負担軽減

○平成30年度までの取り組み

- ・H24年度より入院セット導入。病室ごとに巡回。
- ・入院説明コーナーで入院時カルテ準備、書類の説明実施。
- ・1病棟に夜勤看護補助者を配置。

○現状

25対1急性期看護補助体制加算を6月から12月まで算定できた。

○令和1年度の目標

- ①再び、25対1急性期看護補助体制加算を算定できるようにする。
- ②看護補助者が夜勤に入る病棟を2病棟にして、夜間急性期看護補助体制加算が算定できるよう準備する。

○令和1年度の目標の達成状況

- ①6月1日算定開始。
- ②人材派遣業者に人員要請中。

●病院勤務医の負担軽減及び処遇改善

項目①勤務計画上、連続当直を行わない勤務体制の実施

○平成30年度までの取り組み

- ・医師当直勤務表により連続して当直を行わない勤務体制を構築している。
- ・福島医大より救急科の他、特定診療科への当直支援を要請。

○現状

- ・当直日に配慮し、連続して当直勤務を行わない勤務体制を実施し、医師の負担軽減を図っている。
- ・福島医大より救急科の他特定診療科への当直支援を要請し負担軽減を実施している。

○令和1年度の目標

- ・引き続き医局の当直勤務表作成の担当者が連日当直にならないよう調整を図るとともに総務担当者による確認を行う。

○令和1年度の目標の達成状況

達成できてる。

項目②前日の終業時刻と翌日の始業時刻の間の一定時刻の休息時間の確保（インターバル）

○平成30年度までの取り組み

各診療科で翌日の業務予定を考慮しオンコール体制を組んでいる。

○現状

各診療科で翌日の業務予定を考慮しながら、オンコール体制を組んでいる。

○令和1年度の目標

①診療科部長により、休暇申請および時間外申請にて遅くまでの勤務届出を確認する。

②前日遅くまでの業務の場合は、支障のない範囲で出勤時間を遅らせる等、各診療科部長に、前日の終業時刻と翌日の始業時刻の間の一定時間の休息時間が確保できるよう、継続して配慮要請するとともに完全休日の設定を要請する。

○令和1年度の目標の達成状況

①達成できている。

②×：各診療科部長に配慮要請を継続していく。

項目③予定手術前日の当直や夜勤に関する配慮

○平成30年度までの取り組み

・各診療科および当直表体制担当により予定手術前日の当直を行わないように配慮している。

・福島医大より救急科の他特定診療科への当直支援を要請。

○現状

・各診療科および当直表体制担当により外科系予定手術前日の当直を行わないように配慮している。

・二次救急輪番日には、17時～21時のシニア医師の当直支援や福島医大より救急科の他特定診療科への当直支援を要請し負担軽減を実施している。

○令和1年度の目標

継続して外科系予定手術前日の当直を行わないように、各診療科部長および当直表担当者が配慮する。更に内科系予定手術でも前日の当直を行わないように、各診療科部長および当直表担当者が配慮する。

○令和1年度の目標の達成状況

当直担当者および各診療科部長が配慮。継続していく。

項目④当直翌日の業務内容に対する配慮

- 平成30年度までの取り組み
各診療科で可能な限り、当直翌日午後からの勤務を免除している。
- 現状
各診療科で可能な限り、当直翌日午後からの勤務を免除しているが、診療科の特性により実施できないケースがある。
- 令和1年度の目標
 - ①引き続き各診療科で可能な限り、当直翌日午後からの勤務負担の緩和を考慮するように診療科部長へ要請する。
 - ②研修医についても同様に研修科の指導医による配慮を要請し実施していく。
- 令和1年度の目標の達成状況
 - ①一部実施（診療科による）
 - ②配慮要請を継続

項目⑤交替勤務制・複数主治医制の実施

- 平成30年度までの取り組み
複数主治医制の導入を検討し、可能な診療科より負担の軽減を図る。
- 現状
現在、複数主治医制を導入している診療科とできていない診療科がある。
- 令和1年度の目標
 - ①主治医と担当医と一緒に回診し患者情報を共有し休日の休みを確保する。
 - ②現在複数主治医制を導入していない診療科に対し、検討し負担の軽減を図るよう要請していく。
- 令和1年度の目標の達成状況
 - ①一部実施（診療科による）
 - ②未確認。各診療科部長に要請を継続

項目⑥育児・介護休業法第 23 条第 1 項、同条第 3 項又は同法第 24 条の規定による措置を活用した短時間正規雇用医師の活用

○平成 30 年度までの取り組み

子育て中の女性医師に対し、当直免除などの対策をとっている。

○現状

同上

○令和 1 年度の目標

対象となる医師が発生した場合は、育児・介護休業法で定める期間は、週 30 時間以上の勤務で常勤扱いとなることを考慮しつつ、該当する医師に関しては、短時間勤務の導入を検討していく。

○令和 1 年度の目標の達成状況

該当者なし

●医師と医療関係職種、医療関係職種と事務職員等における役割分担

項目初診時の予診の実施

○平成 30 年度までの取り組み

診療科別であった問診票を統一した。また、患者への記入依頼も各科受付事務が依頼していたが、フロア受付で行い、外来師長が介助や確認をするようにした。

○現状

- ・一般外来患者問診票記入を一元化し、看護師がその介助や確認をすることでより正確な初診時の情報収集を行っている。
- ・電子カルテ化されるため、紙からの移行。
- ・新病院移転し、電子カルテ化され、問診コーナー設置。

○令和 1 年度の目標

紹介患者、新患の情報収集及びトリアージを実施し、速やかに診察が受けられる。

○令和 1 年度の目標の達成状況

待ち時間が長くなっていることから問診コーナーを廃止した。玄関での問診票確認、トリアージを実施。各科外来で診察までに紹介患者、新患の情報収集を行っている。

項目 静脈採血等の実施

- 平成30年度までの取り組み
採血室における採血。
- 現状
検査部の管理で実施している。検査技師1名、看護師1名が専属。看護師1名検査技師1~2名を補助。
- 令和1年度の目標
 - ・朝の混雑解消の為検査技師を1~2名追加して対応。
 - ・5台の採血台に対応する為採血者を現職員の中で融通し対応する。
- 令和1年度の目標の達成状況
達成できている。

項目 入院の説明の実施

- 平成30年度までの取り組み
PFM（入退院支援センター）を設置し、一連の流れで、入院決定時と入院日に、必要事項を患者・家族に説明を行う。
- 現状
 - ・入院が決定した日に、入院の案内パンフレットの配布と説明、入院手続き書類の説明、患者プロフィール用紙の書き方等を行う。
 - ・入院日に必要書類を確認。
 - ・外来看護師・病棟看護師が事務的な説明に介入しないことにより、業務負担軽減を図っている。
- 令和1年度の目標
PFM内で連携を密にし、入院時の説明をスムーズに行う。
- 令和1年度の目標の達成状況
達成できている。

項目 検査手順の説明の実施

○平成30年度までの取り組み

医師からの説明の際は看護師が立会い、検査同意を確認している。

○現状

- ・医師からの説明の後、看護師が理解度を確認し、不明な点は補足説明したり医師にフィードバックしている。
- ・検査説明担当看護師の配置はできていないが、マニュアル作成、勉強会を実施し、統一した説明ができています。

○令和1年度の目標

- ・検査説明担当看護師配置。
- ・クリニカルパスの説明は、入院前に外来（P F M）で説明が受けられるように協力し調整する。

○令和1年度の目標の達成状況

検査説明担当看護師の配置は困難。C S説明は内視鏡室で検査に立ち会う看護師が行っている。電子パスが導入されていないためP F Mでパスの説明はしていない。

項目 服薬指導

○平成30年度までの取り組み

薬剤管理指導料1，2算定。

○現状

- ・薬剤管理指導料1算定件数 2,925件（平成30年）
- ・薬剤管理指導料2算定件数 4,299件（平成30年）

○令和1年度の目標

- ①薬剤管理指導料1算定件数 3500件（年）
- ②薬剤管理指導料2算定件数 4500件（年）

○令和1年度の目標の達成状況

4月～9月 ①1473件 ②2510件

項目 クリティカルパスの活用

- 平成30年度までの取り組み
 - ・入院期間や治療内容を検証し、医療の質の標準化向上。
 - ・診療記録の充実、簡素化。
- 現状
 - ・クリニカルパス作成数や使用率等クリニカルパス委員会で集計し、システム掲示板にて周知。
 - ・新規パスについては、随時承認。
 - ・新規パス作成により医師の指示記載の負担軽減。
 - ・業務の可視化により、職種ごとの役割の分担。
- 令和1年度の目標
 - ①電子パスの作成による医師指示入力負担軽減。
 - ②新規パスの作成。
 - ③診療報酬改定に伴うパスの見直し。
 - ④在院日数確定によるベッドコントローラーと医師の役割分担、負担軽減。
- 令和1年度の目標の達成状況
 - ①電子パスの作成による医師指示入力負担軽減。
 - ②新規パスの作成。
 - ③診療報酬改定に伴うパスの見直し。
 - ④在院日数確定によるベッドコントローラーと医師の役割分担、負担軽減。

項目 救急医療等における診療の優先順位の決定

- 平成30年度までの取り組み
 - トリアージの研修を受けた看護師を救急センターに配置しトリアージを実施している。
- 現状
 - 救急車両で来院した患者の診察介助をする傍らで、ウォークインの患者のトリアージを看護師が実施し、優先順位に即した医師の診察に繋げている。
- 令和1年度の目標
 - 現状の実践継続と、新人看護師のトリアージ研修受講を勧める。
- 令和1年度の目標の達成状況
 - ERでのトリアージは実践している

項目 薬剤師の病棟配置

- 平成30年度までの取り組み
2病棟3人体制。
- 現状
同上
- 令和1年度の目標
 - 現状維持
- 令和1年度の目標の達成状況
5F、6Fをそれぞれ5人体制に他は2病棟3人体制。休暇取得のため人員配置を考慮する。

項目 内視鏡検査手伝い

- 平成30年度までの取り組み
内視鏡業務における医師の手伝い。
- 現状
生理検査より派遣。
- 令和1年度の目標
 - ・数名で業務を覚え交代で出来るようにする。
 - ・内視鏡センターへの応援体制を確立する。
- 令和1年度の目標の達成状況
 - × 産休の技師の補充が出来ず人員不足から応援体制がとれていない。

項目 耳鼻科領域の検査手伝い

- 平成30年度までの取り組み
聴力検査等の手伝い。
- 現状
検査部より派遣。
- 令和1年度の目標
 - ・数名で業務を覚え交代で出来るようにする。
 - ・耳鼻科領域の検査を出来る者を教育する。
- 令和1年度の目標の達成状況
達成できている。

項目 病棟・外来の採血管等検査機材の補充

- 平成30年度までの取り組み
担当を決め各部署の在庫管理をしている。
- 現状
検査部ほぼ全員で実施。
- 令和1年度の目標
 - ・在庫数を適正なものとし少しでも無駄を省けるようにする。
 - ・外部委託業者との相談・打ち合わせをし、より効率的に出来るようにする。
- 令和1年度の目標の達成状況
達成できている。

項目 検診部門において心電図要員として技師1名を派遣

- 平成30年度までの取り組み
検診者の心電図検査
- 現状
朝の時間検査部より派遣
- 令和1年度の目標
 - ・効率よく検査を実施し生理検査業務に戻る。
 - ・生理検査課外からも応援体制をとることで効率よく作業をする。
- 令和1年度の目標の達成状況
達成できている。

項目 栄養指導指示書作成

- 平成30年度までの取り組み
看護師と連携して栄養指導の必要性のある入院患者に対し、栄養指導指示書を代行入力する。
- 現状
全病棟実施。 件数 30 件/月。
- 令和1年度の目標
代行入力件数を増やす及び、栄養指導実施件数を増やす。
- 令和1年度の目標の達成状況
達成できている。

項目 外来の電子カルテ稼働に向けた支援

- 平成30年度までの取り組み
—
- 現状
医師2名（内科1名、眼科1名）代行入力補助。
問診票入力、紹介状入力支援。
- 令和1年度の目標
外来診療業務の円滑な流れに寄与する。
- 令和1年度の目標の達成状況
達成できている。

項目 入院サマリ作成補助

- 平成30年度までの取り組み
診療情報管理室と連携し、速やかな作成を支援。
- 現状
2週間作成率90%超えをキープ。
- 令和1年度の目標
○現状維持。
- 令和1年度の目標の達成状況
達成できている。

項目 外来サマリ作成補助

- 平成30年度までの取り組み
—
- 現状
外来サマリの電子化を推進し、電子カルテ稼働を迎えることができた。
- 令和1年度の目標
現状維持。
- 令和1年度の目標の達成状況
達成できている。

項目 持参薬の電子カルテ入力

○平成30年度までの取り組み

—

○現状

持参薬の電子カルテ入力を行い、見読性が向上した。

○令和1年度の目標

運用方法を改良。

○令和1年度の目標の達成状況

達成できている。

●看護職員の負担軽減及び処遇改善 ○平成30年度までの取り組み

項目 院内の物品の運搬・補充

○平成30年度までの取り組み

- ・メッセンジャー業務2名から1名配置。
- ・SPD業者が各部署へ搬入。

○現状

・外来の電子カルテ化によりメッセンジャーを廃止。

○令和1年度の目標

現状維持。

○令和1年度の目標の達成状況

達成できている。

項目 病棟・外来のクラーク

○平成30年度までの取り組み

- ・H28年10月より事務的業務を行う看護補助者を配置。

○現状

- ・4病棟に配置。

○令和1年度の目標

- ・人員を確保し継続することができる。

○令和1年度の目標の達成状況

達成できている。

項目 予約入院や即日入院の入院前介入

- 平成30年度までの取り組み
 - ・入院前に面接を行い患者情報や退院支援介入のアセスメントを行うため看護師長、看護師を配置。
- 現状
 - ・4月より取り組み入院前介入を眼科から開始した。
- 令和1年度の目標
 - ・予約入院は全診療科に介入する。
 - ・予約入院より即日入院や救急入院が多いので介入対象を拡大する。
 - ・入退院支援センターに看護師を継続して配置していく。
- 令和1年度の目標の達成状況
 - 達成できている。